



ナガエツルノゲイトウ

繁殖力最悪の水草確認

豊後高田、県内2例目

繁殖力の強さから「地球上最悪の侵略的植物」と呼ばれる特定外来生物の水草「ナガエツルノゲイトウ」が、豊後高田市玉津で見つかった。県が1日発表した。県と市で繁殖状況を調べ、拡散防止対策などを検討する。県内では2022年に大分市大在の江川でも確認されており2カ所目。



④ナガエツルノゲイトウの現地調査に同行した大石昭さん(左) ⑤外堀を覆うナガエツルノゲイトウ 9月29日 豊後高田市玉津旧高田城

ナガエツルノゲイトウは、南米原産のヒユ科の多年生植物。国内では1989年に兵庫県尼崎市で初めて定着が報告され、昨年9月までに大分など30都府県で見つかっている。

河川やため池、農業用水路、水田などの水辺に生育し、茎や根の小さな断片からでも再生する。群落を作り、水害の誘発や、農業、生態系への悪影響が懸念されている。人体に害はない。4年前に見つかった大分市の江川では駆除に取り組んだが、根絶はできていないという。

豊後高田市では旧高田城

の外堀で繁殖している。植物調査に取り組む市議の大石昭さん(84)がテレビ報道でナガエツルノゲイトウのことを知り、9月24日に県と市に連絡した。県自然保護推進室が29日に現地を調査し、30日に専門家に確認してもらった。

大石さんによると、3年ほど前から見かけるようになり、範囲を拡大させているという。「今まで外来種と気にしていなかった。市内100カ所近くの池などを見て回ったが、他にはなかった」と話した。

ナガエツルノゲイトウは外来生物法で特定外来生物に指定されている。許可なく持ち去ったり、栽培したりすると同法違反で処罰対象となる。

同室は「現在は堀の中でのみ繁殖しているようだ。外に出さない対策が重要になる。県内の他の場所でも似たような植物を見かけたら、抜き取ったりせずに県や市町村に連絡してほしい」と呼びかけている。

(小田原大周)



〔問①〕（ ）に入る適切な数字や言葉を、記事の中から探して書き入れてください。

豊後高田市で、特定外来生物のナガエツルノゲイトウが確認されました。この植物は（ ）原産で、茎や根の小さな断片からでも（ ）する特徴を持ちます。県内では（ ）年に大分市で確認されて以来、（ ）例目となります。

〔問②〕以下の選択肢の中から、記事の内容について正しいものを1つ選んでください。

- ㊦ ナガエツルノゲイトウは人体に有害な毒性をもつため、非常に危険である。
- ㊧ 豊後高田市で見つかったナガエツルノゲイトウは、茎や根の小さな断片からでも再生する高い繁殖力を持っており、市議の大石忠昭さんが県と市に連絡したことで発覚した。
- ㊨ 豊後高田市では市内約100カ所の池の調査を行った結果、旧高田城の外堀をはじめとする複数の場所で同時に繁殖が確認された。
- ㊩ ナガエツルノゲイトウは法律上の指定を受けていないため、個人で自由に持ち去ったり自宅で栽培したりしても処罰されることはない。

答：

〔問③〕記事の中で、大分県自然保護推進室は「似たような植物を見かけたら、抜き取ったりせずに県や市町村に連絡してほしい」と呼びかけています。このような呼びかけをしている理由を考えて書いてください。